

丙種模擬試験 第2回(印刷用)

全25問・四肢択一／目安 1時間15分／合格基準:3科目とも60%以上(法令6問・燃焼消火3問・性質6問)

この PDF の中身:問題(このページから)／解答用紙(6ページ)／解答・解説(7ページから)

当サイトのオリジナル問題です(公式の過去問題ではありません)。

第1科目:危険物に関する法令【10問】

問1

危険物取扱者免状の書換えについて、正しいものはどれか。

- (1)免状の書換えは、免状を交付した都道府県知事にのみ申請できる
- (2)本籍地の属する都道府県が変わった場合は、書換えを申請しなければならない
- (3)勤務先が変わった場合は、書換えを申請しなければならない
- (4)免状の写真是、撮影後5年以内に書換え申請しなければならない

問2

予防規程について、正しいものはどれか。

- (1)予防規程は、すべての製造所等において定めなければならない
- (2)予防規程を定めたときは、消防長又は消防署長の認可を受けなければならない
- (3)予防規程を定めたときは、市町村長等の認可を受けなければならない
- (4)予防規程は、一度定めたら変更することはできない

問3

危険物施設保安員について、誤っているものはどれか。

- (1)製造所等の構造及び設備の保安のための業務を行う
- (2)危険物保安監督者の下で保安業務を行う
- (3)危険物取扱者の資格を持っていなければ選任できない
- (4)市町村長等への届出は不要である

問4

危険物取扱者以外の者が危険物を取り扱う場合について、正しいものはどれか。

- (1)丙種危険物取扱者が立ち会えば、すべての危険物を取り扱うことができる
- (2)甲種又は乙種の危険物取扱者が立ち会えば、危険物を取り扱うことができる
- (3)危険物取扱者以外の者は、いかなる場合でも危険物を取り扱うことができない
- (4)危険物取扱者以外の者が取り扱う場合は、消防長の許可が必要である

問5

移動タンク貯蔵所について、正しいものはどれか。

- (1)タンクの容量は、50,000L以下でなければならない
- (2)タンクの容量は、30,000L以下でなければならない
- (3)タンクの容量は、20,000L以下でなければならない
- (4)タンクの容量に制限はない

問6

消防法第12条の2第2項に、製造所等の使用停止命令の直接の事由として定められているものはどれか。

- (1)位置、構造または設備が技術上の基準に適合していないとき
- (2)危険物の貯蔵または取扱いが技術上の基準に違反しているとき
- (3)危険物保安監督者を定めていないとき
- (4)危険物取扱者が保安講習を受講していないとき

問7

消火設備のうち、第5種の消火設備として正しいものはどれか。

- (1)屋内消火栓設備
- (2)スプリンクラー設備
- (3)小型消火器
- (4)泡消火設備

問8

製造所等の保有空地について、正しいものはどれか。

- (1)保有空地は、延焼防止と消防活動のために設けられる
- (2)保有空地内に、防火上安全な構造物であれば設置できる
- (3)保有空地は、屋内貯蔵所には不要である
- (4)保有空地の幅は、すべての製造所等で同じである

問9

危険物の運搬の基準として、正しいものはどれか。

- (1)運搬容器の外部に品名を表示する必要はない
- (2)指定数量未満の危険物であれば、運搬の基準は適用されない
- (3)運搬容器は、収納口を上に向けて積載しなければならない
- (4)第4類の危険物は、すべて同じ運搬容器に混合して収納できる

問10

製造所等の位置、構造又は設備を変更する場合について、正しいものはどれか。

- (1)変更の許可を受けずに工事を行い、完了後に届け出ればよい
- (2)変更の許可は、消防長又は消防署長が行う
- (3)完成検査を受ける必要はない
- (4)変更の工事が完了したときは、市町村長等の完成検査を受けなければならない

第2科目:燃焼及び消火に関する基礎知識【5問】

燃焼・消火問題の読み方

燃焼範囲や引火・発火のしやすさは、濃度、温度、圧力、換気などの条件に左右されます。「危険性」は一つの数値だけで決めず、この問題では各選択肢に示された条件と基本原理を比較してください。

問11

消火の原理について、正しいものはどれか。

- (1)窒息消火とは、可燃物を取り除く消火法である
- (2)冷却消火とは、酸素の供給を断つ消火法である
- (3)除去消火とは、燃焼物の温度を下げる消火法である
- (4)窒息消火とは、酸素の供給を遮断する消火法である

問12

自然発火について、正しいものはどれか。

- (1)自然発火は、外部からの火源がなくても物質が発火する現象である
- (2)自然発火は、引火点の低い物質のみで起こる
- (3)自然発火は、密閉された容器内では起こらない
- (4)自然発火は、温度が低いほど起こりやすい

問13

比熱について、正しいものはどれか。

- (1)比熱とは、物質1kgの温度を1℃上げるのに必要な熱量である
- (2)水の比熱は、金属の比熱より小さい
- (3)比熱の単位は、J(ジュール)である
- (4)比熱が大きい物質ほど、温まりやすい

問14

引火性液体の燃焼範囲(爆発範囲)について、正しいものはどれか。

- (1)燃焼範囲が広いほど、危険性は低い
- (2)燃焼下限界の値が小さいほど、危険性が高い
- (3)燃焼上限界を超えた濃度の蒸気は、必ず燃焼する
- (4)燃焼範囲は、温度によって変化しない

問15

熱の伝わり方について、正しいものはどれか。

- (1)対流とは、固体中を熱が伝わる現象である
- (2)伝導(伝熱)とは、物質の移動を伴って熱が伝わる現象である
- (3)放射(輻射)とは、物質がなくても熱が伝わる現象である
- (4)液体中では、対流は起こらない

第3科目:危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法【10問】

性質・火災対応問題の注意

物性値は代表値で、組成、温度、測定条件などにより変わります。設問は試験学習用であり、実物の保管・移し替え・火災対応には転用しないでください。製品SDS、容器と消火設備の表示、施設の緊急時手順を確認し、火災時は安全確保・避難・通報を優先します。

問16

第4類危険物の一般的な性質として、誤っているものはどれか。

- (1)引火性の液体である
- (2)蒸気は空気より重い
- (3)水より軽いものが多い
- (4)電気の良導体である

問17

ガソリンの性質について、正しいものはどれか。

- (1)蒸気の爆発範囲(燃焼範囲)は、約1.4～7.6vol%である
- (2)発火点は約100℃である
- (3)液比重は水より重い(約1.2)
- (4)沸点は約200℃である

問18

灯油の性質について、正しいものはどれか。

- (1)引火点は約0℃で、常温でも引火の危険がある
- (2)発火点はガソリンの発火点より高い
- (3)水より重いため、水に沈む
- (4)発火点はガソリンの発火点より低い

問19

軽油について、誤っているものはどれか。

- (1)ディーゼルエンジンの燃料として使用される
- (2)引火点は約45℃以上である
- (3)淡黄色又は淡褐色の液体である
- (4)常温(20℃)で引火の危険性が高い

問20

重油について、正しいものはどれか。

- (1)水より重いため、水に沈む
- (2)C重油はA重油より粘度が低い
- (3)加熱すると引火の危険性が増大する
- (4)水をかけると効果的に消火できる

問21

第3石油類のうち、丙種危険物取扱者が取り扱えるものとして、正しいものはどれか。

- (1)引火点100℃以上の第3石油類
- (2)重油及び潤滑油ならびに引火点130℃以上のもの
- (3)重油のみ
- (4)第3石油類のすべて

問22

動植物油類の火災予防について、正しいものはどれか。

- (1) 布に染み込んだ動植物油は、堆積しても自然発火しない
- (2) 乾性油を染み込ませたぼろ布は、堆積すると自然発火するおそれがある
- (3) 動植物油類は引火点が低いため、常温でも引火の危険がある
- (4) 動植物油類の消火には、必ず水を使用する

問23

丙種危険物取扱者が取り扱える危険物の組合せとして、正しいものはどれか。

- (1) ガソリン、灯油、軽油、ベンゼン
- (2) ガソリン、灯油、軽油、重油、アセトン
- (3) ガソリン、灯油、軽油、重油、第4石油類、動植物油類
- (4) 第4類危険物のすべて

問24

第4類危険物の火災予防として、正しいものはどれか。

- (1) 可燃性蒸気が滞留しないよう、通風・換気をよくする
- (2) 容器は密栓せず、通気口を設ける
- (3) 貯蔵場所の温度は特に管理する必要はない
- (4) 金属製容器に貯蔵する場合、接地(アース)は不要である

問25

第4類危険物の火災が発生した場合の初期消火として、適切でないものはどれか。

- (1) 泡消火器で消火する
- (2) 粉末消火器で消火する
- (3) 棒状の強化液消火器で消火する
- (4) 二酸化炭素消火器で消火する

解答用紙 — 丙種模擬試験 第2回

実施日：	年	月	日	正解数：	／	問
------	---	---	---	------	---	---

各問の解答番号を○で囲んでください。(全25問・4択)

第1科目:危険物に関する法令(問1～問10)

問題	解答
問1	(1) (2) (3) (4)
問2	(1) (2) (3) (4)
問3	(1) (2) (3) (4)
問4	(1) (2) (3) (4)
問5	(1) (2) (3) (4)
問6	(1) (2) (3) (4)
問7	(1) (2) (3) (4)
問8	(1) (2) (3) (4)
問9	(1) (2) (3) (4)
問10	(1) (2) (3) (4)

第2科目:燃焼及び消火に関する基礎知識(問11～問15)

問題	解答
問11	(1) (2) (3) (4)

問12	(1) (2) (3) (4)
問13	(1) (2) (3) (4)
問14	(1) (2) (3) (4)
問15	(1) (2) (3) (4)

第3科目:危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法(問16～問25)

問題	解答
問16	(1) (2) (3) (4)
問17	(1) (2) (3) (4)
問18	(1) (2) (3) (4)
問19	(1) (2) (3) (4)
問20	(1) (2) (3) (4)
問21	(1) (2) (3) (4)
問22	(1) (2) (3) (4)
問23	(1) (2) (3) (4)
問24	(1) (2) (3) (4)
問25	(1) (2) (3) (4)

採点する前に

このページは、[丙種模擬試験 第2回](#)の四肢択一オリジナル問題25問に対応する解答・解説です。公式の過去問題ではありません。全25問を採点し、法令10問、燃焼・消火5問、性質10問に分けて復習してください。

科目・問題数は[消防試験研究センター](#)、四肢択一・1時間15分・科目別60%以上の合格基準は「[試験の方法](#)」で確認できます。法令問題は[消防法](#)、[危険物政令](#)、[危険物規則](#)も参照してください。

第1科目:危険物に関する法令

問1 正解:(2)

問題:危険物取扱者免状の書換えについて正しいものを選ぶ

氏名または本籍地の属する都道府県名が変わった場合は、免状の記載事項の書換えが必要です。勤務先の変更は書換え事由ではありません。写真は免状に記載された次回書換え年月日を確認します。この年月日は、貼付写真の撮影年月日から10年を経過する日を基準にしています。

関連する解説:[危険物取扱者免状\(書換え・再交付・保安講習\)](#)

問2 正解:(3)

問題:予防規程について正しいものを選ぶ

消防法第14条の2により、対象となる製造所等の所有者等は予防規程を定め、市町村長等の認可を受けます。すべての製造所等が対象ではなく、変更するときも認可が必要です。ここでいう市町村長等は施設区分に応じた許可権者を指します。

関連する解説:[予防規程・定期点検・自衛消防組織](#)

問3 正解:(3)

問題:危険物施設保安員について誤っているものを選ぶ

危険物施設保安員は、危険物取扱者免状がなくても選任できるため(3)が誤りです。政令で定める製造所等で、構造・設備に係る保安業務を行います。危険物保安監督者と異なり、選任・解任を市町村長等へ届け出る制度はありません。

関連する解説:[保安監督者・保安統括管理者・施設保安員](#)

問4 正解:(2)

問題:危険物取扱者以外の者が危険物を取り扱う場合について正しいものを選ぶ

消防法第13条第3項により、製造所等で危険物取扱者以外の者が取り扱うときは、甲種または乙種危険物取扱者の立会いが必要です。乙種が立ち会えるのは免状で認められた類の範囲で、丙種には立会権限がありません。

関連する解説:[危険物取扱者免状\(書換え・再交付・保安講習\)](#)

問5 正解:(2)

問題:移動タンク貯蔵所について正しいものを選ぶ

危険物政令第15条では、移動貯蔵タンクの容量を30,000L以下とし、内部に4,000L以下ごとの完全な間仕切を設けるよう定めています。したがって(2)が正解です。

関連する解説:[移動タンク貯蔵所\(タンクローリー\)の基準](#)

問6 正解:(3)

問題:消防法第12条の2第2項に、製造所等の使用停止命令の直接の事由として定められているものを選ぶ

消防法第12条の2第2項第3号は、同法第13条第1項に違反して危険物保安監督者を定めていない場合を、使用停止命令の直接事由としています。位置・構造・設備の不適合や貯蔵・取扱基準違反は、是正の命令に違反した場合との区別が必要です。保安講習の未受講は、この項に列挙された施設の使用停止事由ではありません。

関連する解説:[措置命令・使用停止命令・許可の取消し](#)

問7 正解:(3)

問題:消火設備のうち、第5種の消火設備として正しいものを選ぶ

第5種の消火設備には、小型消火器、水バケツ、水槽、乾燥砂、膨張ひる石、膨張真珠岩などがあります。屋内消火栓は第1種、スプリンクラーは第2種、泡消火設備は第3種なので(3)が正解です。

関連する解説:[消火設備\(第1～5種\)と警報設備](#)

問8 正解:(1)

問題:製造所等の保有空地について正しいものを選ぶ

保有空地は、延焼防止と消防活動に必要な空間を確保するために設けるため(1)が正解です。必要な幅や適用の有無には施設種類、指定数量の倍数、構造上の特例が関係するので、すべての施設を同じ幅で扱いません。

関連する解説:[保安距離と保有空地](#)

問9 正解:(3)

問題:危険物の運搬の基準として正しいものを選ぶ

危険物の運搬容器は、収納口を上方に向けて積載するのが原則なので(3)が正解です。運搬容器には品名・数量等の表示が必要で、運搬基準は指定数量未満にも適用されます。異なる危険物を同じ容器へ自由に混合できるわけではありません。

関連する解説:[危険物の運搬基準](#)

問10 正解:(4)

問題:製造所等の位置、構造又は設備を変更する場合について正しいものを選ぶ

製造所等の位置・構造・設備を変更する場合は、原則として事前に市町村長等の許可を受け、変更工事後に完成検査を受けます。完成検査済証の交付前は、承認を受けた仮使用部分を除き使用できないため(4)が正解です。

関連する解説:[設置許可・完成検査・仮使用・仮貯蔵](#)

第2科目:燃焼及び消火に関する基礎知識

問11 正解:(4)

問題:消火の原理について正しいものを選ぶ

(4)は、酸素供給を遮断する窒息消火の説明です。(1)は可燃物を除く除去消火、(3)は温度を下げる冷却消火の内容で、(2)は冷却消火と窒息消火を取り違えています。抑制消火を加えて4原理として整理する場合もあります。

関連する解説:[三種の燃焼・消火の基礎](#)

問12 正解:(1)

問題:自然発火について正しいものを選ぶ

自然発火は、外部の点火源がなくても、酸化・分解などの発熱が放熱を上回って蓄積し、発火に至る現象なので(1)が正解です。引火点だけでは判断できず、物質、量、含浸状態、堆積、換気、周囲温度などの条件が関係します。

関連する解説:[燃焼の仕組み\(3要素・燃焼の種類・自然発火\)](#)

問13 正解:(1)

問題:比熱について正しいものを選ぶ

比熱は、単位質量の物質の温度を1K(温度差では1℃と同じ大きさ)上げるのに必要な熱量です。SI単位はJ/(kg・K)なので(1)が該当します。比熱が大きいほど、同じ質量・同じ受熱量では温度変化が小さくなります。

関連する解説:[比熱・熱量の計算と熱の伝わり方](#)

問14 正解:(2)

問題:引火性液体の燃焼範囲(爆発範囲)について正しいものを選ぶ

同じ温度・圧力などで比較するなら、燃焼下限界が低い物質は、より低い蒸気濃度から燃焼可能な混合気をつくるため(2)が適切です。ただし実際の危険性は、燃焼範囲の幅だけでなく、引火点、蒸気圧、換気、点火源なども含めて判断します。

関連する解説:[三種の燃焼・消火の基礎](#)

問15 正解:(3)

問題:熱の伝わり方について正しいものを選ぶ

放射は電磁波による熱移動で、物質がない真空中でも伝わるため(3)が正解です。伝導は物質内部や接触面を通じた熱移動、対流は液体・気体の巨視的な移動を伴う熱移動です。

関連する解説:[比熱・熱量の計算と熱の伝わり方](#)

第3科目:危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法

性質・消火の解説について

問16以降は試験学習用の代表値と一般的性質です。実物を色・において識別したり、混合・移し替え・換気・接地・消火方法へそのまま転用したりしないでください。丙種の取扱範囲は[総務省消防庁資料](#)、ガソリンの代表物性と消火剤は[厚生労働省のモデルSDS](#)でも確認できます。実務では製品SDS、設備の適応表示、施設手順を優先し、火災時は安全確保・避難・119番通報を先に行います。

問16 正解:(4)

問題:第4類危険物の一般的な性質として誤っているものを選ぶ

丙種で扱う代表的な石油系液体は電気を通しにくく、流動・ろ過・噴出などで静電気を蓄積することがあるため、(4)が一般的な性質として誤りです。ただし導電率、液比重、蒸気密度は物質・組成で異なり、第4類全体へ一律には当てはめません。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問17 正解:(1)

問題:ガソリンの性質について正しいものを選ぶ

この設問では、ガソリンの代表的な燃焼範囲として約1.4～7.6vol%を採用しているため(1)が正解です。ガソリンは混合物で、厚生労働省のモデルSDSにも1.3～6.0vol%など別の代表値があります。実物の値は製品SDSと測定条件を確認してください。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問18 正解:(4)

問題:灯油の性質について正しいものを選ぶ

代表値では灯油の自然発火温度は約220℃、ガソリンは約300℃とされる資料があるため、この設問では(4)が正解です。引火点の高低と自然発火温度の高低は同じ順序になるとは限りません。どちらも混合物なので、製品組成と資料により値に幅があります。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問19 正解:(4)

問題:軽油について誤っているものを選ぶ

この設問では、軽油の代表的な引火点を45℃以上、周囲温度を20℃として比較しているため、「引火の危険性が高い」とする(4)を誤りとしています。ただし、引火点未満でも霧化、他燃料の混入、高温面などで危険が生じます。外観にも製品差があるので、色だけで識別しません。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問20 正解:(3)

問題:重油について正しいものを選ぶ

加熱すると可燃性蒸気の発生が増え、点火源があれば引火しやすくなるため(3)が正解です。重油の密度・粘度は種類と温度で異なります。棒状注水は燃焼液を拡散させるおそれがありますが、消火剤や冷却方法は製品、火災規模、設備の適応に合わせて選びます。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問21 正解:(2)

問題:第3石油類のうち、丙種危険物取扱者が取り扱えるものとして正しいものを選ぶ

丙種免状で取り扱える第3石油類は、重油、潤滑油、引火点130℃以上のものに限られるため(2)が正解です。第3石油類をすべて取り扱えるわけではありません。

関連する解説:[丙種危険物取扱者とは\(取り扱える危険物\)](#)

問22 正解:(2)

問題:動植物油類の火災予防について正しいものを選ぶ

乾性油などが布・紙へ染み込み、重なって放熱しにくい状態になると、酸化熱が蓄積して自然発火するおそれがあるため(2)が正解です。自然発火のしやすさはヨウ素価だけで決めず、油の種類、含浸量、堆積、温度、換気なども確認します。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問23 正解:(3)

問題:丙種危険物取扱者が取り扱える危険物の組合せとして正しいものを選ぶ

(3)に挙げられたガソリン、灯油、軽油、重油、第4石油類、動植物油類は、丙種の取扱範囲に含まれます。この選択肢は全品目の列挙ではなく、丙種ではほかに潤滑油や引火点130℃以上の第3石油類も対象です。ベンゼンやアセトンなど第1石油類一般を扱える免状ではありません。

関連する解説:[丙種危険物取扱者とは\(取り扱える危険物\)](#)

問24 正解:(1)

問題:第4類危険物の火災予防として正しいものを選ぶ

可燃性蒸気が滞留しないよう、物質と設備に適した換気を行う(1)が適切です。実際は防爆性能、換気位置、蒸気密度も確認します。容器はメーカー指定の密閉・通気機構を使用し、接地・ボンディングは移し替え方法や設備基準に合わせて行います。

関連する解説:[第4類危険物の共通性質](#)

問25 正解:(3)

問題:第4類危険物の火災が発生した場合の初期消火として適切でないものを選ぶ

代表的な石油系液体の小規模な初期火災で、適応表示のある消火器を使う前提では、棒状の強化液を放射する(3)が不適切です。棒状注水は燃焼液を拡散させるおそれがあります。第4類でも水溶性や火災規模で適切な消火剤は異なるため、安全に退避できる範囲を超えて消火せず、119番通報と施設手順を優先してください。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

採点後の見直し

1. 法令10問中6問、燃焼・消火5問中3問、性質10問中6問をこのページ内の復習目安にする
2. 法令は[丙種法令](#)と[法令ミニテスト](#)、燃焼・消火は[基礎解説](#)と[ミニテスト](#)へ戻る
3. 性質は[代表物質の整理](#)と[性質ミニテスト](#)で、物質・温度・設備条件を確認する
4. [第2回の問題へ戻る](#)か、[第1回](#)を解き直す

答え合わせが終わったら

- 次の回:第2回が最後の回です。[第1回をもう一度解く](#)か、[模擬試験一覧](#)から選ぶ
- 同じ分野のミニテスト:[丙種・法令](#)／[丙種・燃焼と消火](#)／[丙種・性質](#)(各10問)
- ロードマップ:[丙種の勉強法とロードマップ](#)(学習の順番に戻る)

危険物取扱者への道 kikenbutsu-roadmap.com/775/ (2026-10-03 作成) 内容には注意を払っていますが、誤りが含まれる可能性があります。最終的な確認は法令・公式の案内で行ってください。